

# 星立天然保護区域の ヤエヤマヤシの現況調査



平成26年4月

九州森林管理局  
西表森林生態系保全センター

## 1. はじめに

西表島北西部の星立天然保護区域に生育するヤエヤマヤシ (*Satakentia liukuensis*) は西表島の「ウブンドルのヤエヤマヤシ」、石垣島の「米原のヤエヤマヤシ」とともに国指定の天然記念物に指定されている。このヤエヤマヤシは西表島と石垣島に生育する1属1種の固有種であり、環境省の準絶滅危惧種に指定されており、将来的に絶滅する危険性があると判断されている。

また、準絶滅危惧種とされたものについては、保全状況について定期的に再評価が必要であるとされている。

この区域は、文化庁指定の史跡名勝天然記念物に指定されており、今回の調査に際しては、関係機関である沖縄県及び竹富町教育委員会等に事前の連絡を行って、調査だけであれば問題がないことを確認し調査を実施した。

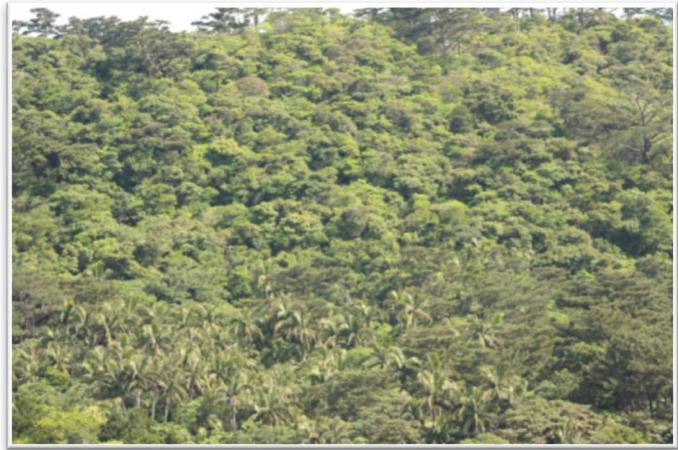


写真1 星立て天然保護区の遠望

## 2. 所在地

沖縄県八重山郡竹富町字西表国有林 137 ほ林小班

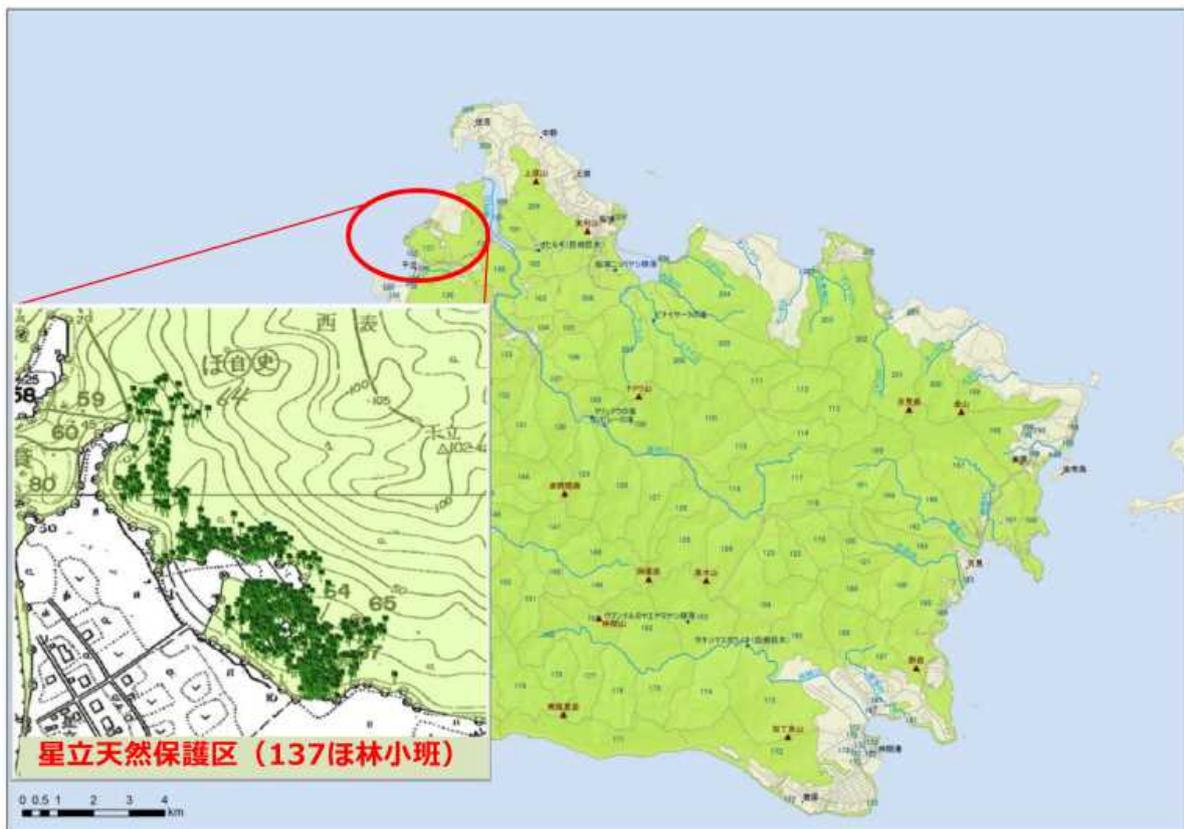


図1 星立天然保護区位置図

### 3. 調査方法等

星立天然保護区域内のヤエヤマヤシが群生している箇所において、ヤエヤマヤシの1.2mになる部位が木質化しているものだけを測定し（図2）、それ以下の幼樹や稚樹は省略した。要約すれば1.2mの胸高径が測定できないものについては除外して調査を実施し、樹高は葉の部分を除く木質部だけについて12mの検測棒で測定、胸高径は直径巻尺で測定した。ハンディーGPSで全調査木の位置情報を取得し、調査済みの個体表示には、その後の生育に影響を与えることがないウッドファイバーテープで表示した。調査に要した人工数は踏査等も含め延べ18人となった。

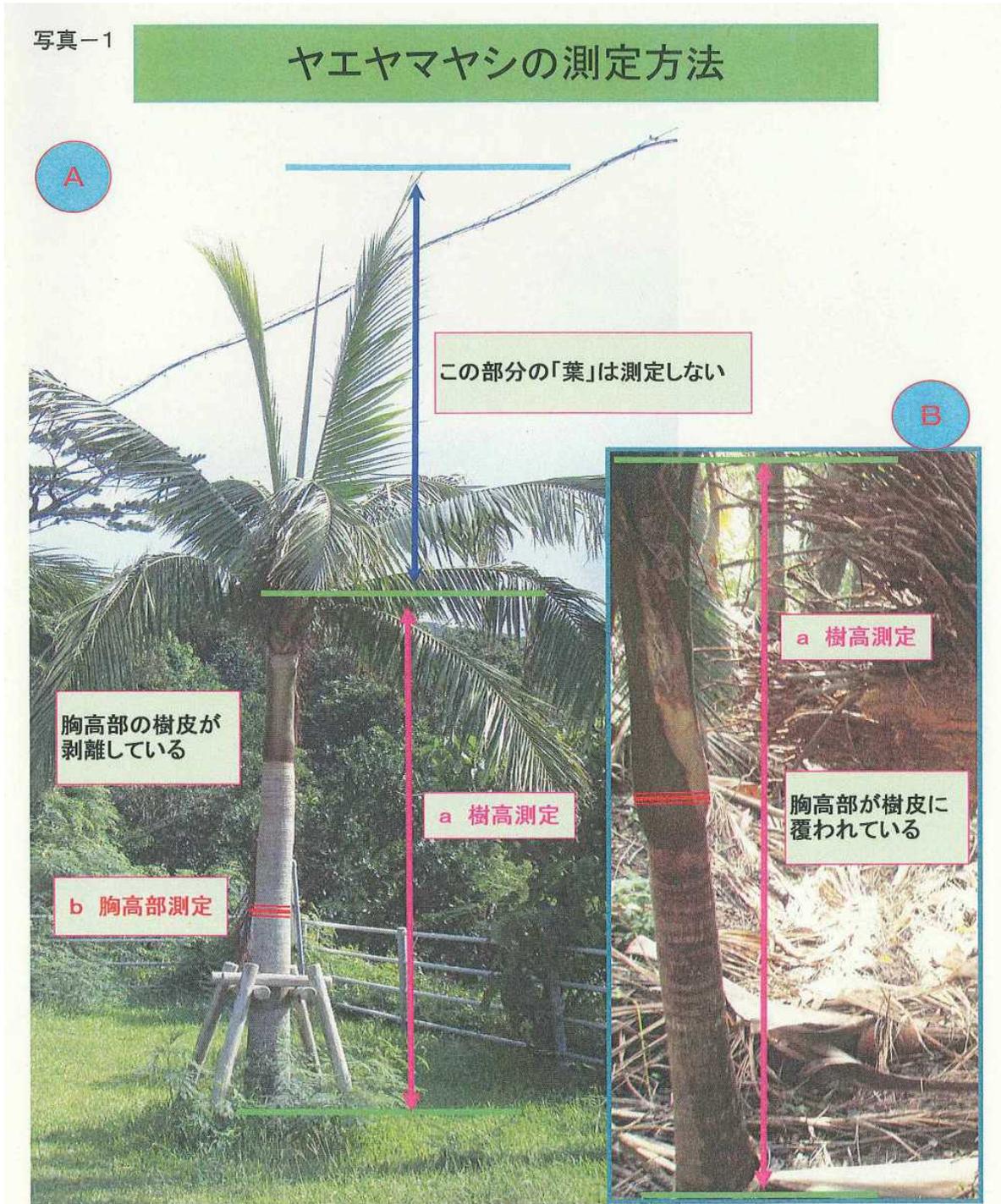


図2 ヤエヤマヤシの測定方法

## 4. 結果

ヤエヤマヤシの調査総本数は761本（平均胸高径19.5cm、平均樹高5.2m）で（表2）、胸高径は10cm～30cm（グラフ1）が過半数を占めており、40cmを超えるものは見当たらなかった。ウブンドルの調査結果（表3）と比較してみると、最大樹高を除けばほぼ同じような数値となった

樹高は10m以下（グラフ2）のものが大半で、幹が直立しているが天頂部分が葉になっていることもあって、スギやヒノキのように樹高に伸びがあるものではなく、樹高はおおむね低い結果となっている。

また、林分内には台風等による強風の被害で生じたと考えられる幹折れや倒木が数本程度あることが確認出来た。

ヤエヤマヤシの根際には稚樹が発生（写真3）しており、母樹から数十mほど離れたところにも多数の稚樹の発生がみられた（写真4）。このことから、種子の拡散については重力によるものが大部分であるが、風力や鳥等による種子の散布も行われていると推測された。また、数センチの稚樹だけでなく1m前後に生長した幼木も多く確認できたことから、林分内では稚樹の生育も良く天然更新が行われていると判断され、ヤエヤマヤシの林分は更新が円滑に行われている状態にあると考える。



写真2 調査風景



写真3 ヤエヤマヤシの根元に生えた稚樹



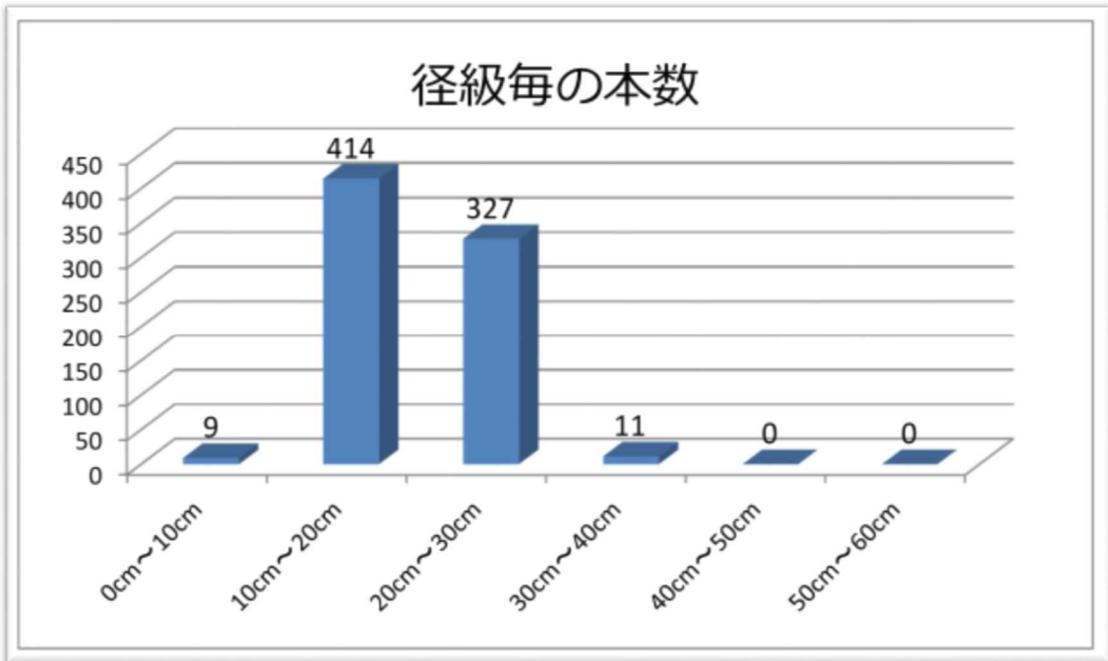
写真4 母樹から離れたところにある稚樹

総本数	761 本
平均胸高径	19.5 cm
最大胸高径	32.1 cm
最小胸高径	9.0 cm
平均樹高	5.2 m
最大樹高	15.1 m
最小樹高	1.5 m

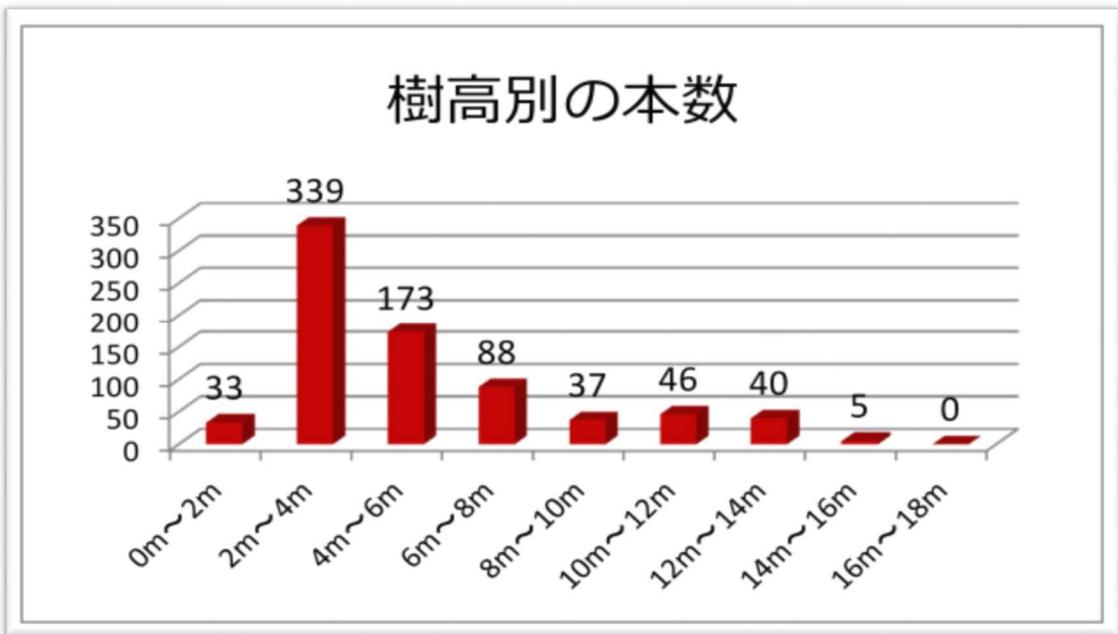
表2 星立のヤエヤマヤシ  
調査結果

総本数	1,246 本
平均胸高径	22.1 cm
最大胸高径	32.5 cm
最小胸高径	8.6 cm
平均樹高	6.7 m
最大樹高	22.8 m
最小樹高	1.8 m

表3 ウブンドルのヤエヤマヤシ  
調査結果



グラフ 1 径級毎の本数



グラフ 2 樹高別の本数

## 調 査 員

林野庁 九州森林管理局  
西表森林生態系保全センター

所	長	井田	篤雄
	自然再生指導官	渡邊	昭博
	生態系管理指導官	吉田	真佐也
	専門官	江口	頼雄